

1990～2000年の人口増加年率は第2表に示したように1.70%だった。単収増加率がこれまでの半分になるという想定の下でも、人口増加率に見合う穀物生産増加率は維持できるという予測になる。ブラウンらは近年の動向から、21世紀に向けて増加する世界人口を養うだけの食糧供給増はできないとしているし、FAOは2010年の予測だが年率1.62%の穀物生産増を見込んでいる（FAO「2010年の世界農業」未発表）。これに比べれば農水省予測はやや甘い予測と言ってよさそうだが、それでも容易ならざる問題があることをこの予測からも知ることができる。途上国の問題である。

今日でも、先進国の余剰穀物が途上国に輸出され、その輸入があつて途上国の食糧需給バランスは取れているのであるが、2000年にはその貿易量は倍以上に増大することが予測されている。この単収増加率が半減するという条件下では、穀物価格が現在の2倍になることがモデルから導き出されるから、途上国は不足する穀物輸入のために今の4倍の外貨支出を強いられることになるわけである。

第9表 2000年の世界穀物需給予測及び1人当たり穀物消費量予測

		基準年 (1988)	予 測 (2000)	
先進国	生産量 (百万トン)	870	1,060	
	消費量 (百万トン)	787	882	
	輸 出 量 (百万トン)	85	181	
	1人当たり消費量 (kg)	627	672	
発展途上国	生産量 (百万トン)	819	1,012	
	消費量 (百万トン)	902	1,196	
	輸 入 量 (百万トン)	85	181	
途上国	1人当たり消費量	途上国平均 (kg)	233	242
		中南米 (kg)	264	260
		アフリカ (kg)	159	142
		中近東 (kg)	366	344
		アジア (kg)	228	249

注) 農林水産省「新しい食料、農業、農村政策の方向」1992 関係資料から作成。

4倍の外貨負担に耐えての輸入でも、途上国の人々がそれだけの輸入で十分に食べられるのならまだいいが、表に見るようにアジアの途上国を除いて、その他地域の途

上国はいずれも1人当たり穀物消費量は減るという予測になっている。アフリカは現状で1人当たり159kg、先進国の4分の1という少消費量であるが、そのアフリカでも、現状よりさらに1割以上の消費減を余儀なくされるというのである。中南米でも中近東でも1人当たり消費量は減らさなければならない。1人当たりではアフリカの4倍を消費している先進国の1人当たり消費量は更に増えるというのに、である。

これまでのところは爆発的な世界の人口増加率以上の増加率で穀物が生産されてきたことを示した第5表に、世界の栄養不足人口の数字を併記しておいたのを見てほしい。栄養不足人口は'69~'71年の4億6千万人が'84~'85年には5億1千万人に増えていたが、この5億1千万人がアフリカ、中南米、中近東に多いことは説明を要しまい。FAOはこの栄養不足人口が2000年には5億3千万人に増えるだろうと予測していた(FAO「2000年の世界農業」)が、それは今回の農水省予測のような穀物価格が2倍になるということは想定しない条件の下での予測だった。価格が2倍になり、途上国では1人当たり消費量を減らさなければならぬという状況の下では、栄養不足人口は更に増大することになるだろう。

先進国が1人当たり627kgも消費しているのを、更に672kgにも高めるのは、畜産物消費を増やすからだが、ここで我々は一方で栄養不足人口の増大が見込まれる中で、先進国の人間のために家畜に穀物を消費させているという問題をどう考えるか、という問題にぶつかる。穀物を人間と家畜へどう分配すべきかという問題であり、それは先進国の人々の生活様式をそのままに是認することでもいいのかという問題になる。

途上国にも問題がある。現在、8,500万トンもの穀物を輸入し、2000年にはそれを倍増させなければならないというのは、穀物生産に充てる耕地がないからではない。発展途上国がコーヒー、ゴム、ココア、紅茶、綿花、バナナ、砂糖など輸出農産物を大量に作っていることは周知のところであろう。飢餓と言えはすぐ話題になるエチオピアも有数のコーヒー輸出国である。輸出農産物プランテーション農業に最良の耕地を取られていることが、食糧自給を困難にしているのである。途上国内における耕地利用の在り方をどう考えるのかという問題がそこにある。もちろん、それは当該国の土地所有問題をどう考えるかという問題でもある。